

## 高付加価値の熱処理で 日本の製造業の基盤を担う

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



最大直径4mの浸炭焼入れ処理に対応

### 業務内容 総合力のある熱処理で 日本の産業振興を支える

加熱と冷却による熱処理加工は、金属に耐久性や耐摩耗性、耐疲労性、耐食性、耐熱性などのさまざまな特性が付加できる。日本の産業を全般的に支える基盤技術の1つだ。

明治42年に創業した「東洋金属熱錬工業所」は100年以上にわたり日本の製造業を支え続けてきた。鉄鋼や自動車、建設機械、工作機械、農業機械、船舶、航空宇宙産業などユーザーは多岐にわたり、大山照雄社長は「熱処理のデパート」といえる総合力を持つ」と自信をみせる。西日本に5工場を構え、計約160基の熱処理炉で多様な依頼をこなしている。

### 強み 特殊な依頼は 独自開発の熱処理炉で対応

通常では対応できない要望でも高品質で実現できるのが「東洋金属熱錬工業所」の強み。取引先は年間約650社に及ぶ。特殊な依頼をこなすため、西田繁和常務を中心に独自の熱処理炉を自社で開発している。

高砂第2工場（兵庫県高砂市）には、最大直径4mの大型歯車やベアリングの浸炭焼入れ処理が可能な炉や、コイル材を巻いたまま加熱できる焼入れ炉、円筒形状の薄物長尺品用のガントリー型設備などが並ぶ。ユーザーのニーズに応え続けることで、時代の変化の波を越えて生き残ってきた。

### 人材育成 資格取得奨励と 現場経験の蓄積で技術を伝承

熱処理は加工前後で形状変化がないため、見た目では品質を評価するのが困難。

信頼性を高めるため、資格取得を推奨している。現在、社員の約70%にあたる約200名が国家資格である金属熱処理技能士の資格を保有。2級37名、1級123名、最上位の特級も41名おり、5工場にまんべんなく有資格者を配置している。ただ、資格試験で問われる知識のほかに、現場経験でしか蓄積できない特殊な加工の固有技術がある。若手社員を交えて技術改善を検討し、ノウハウの蓄積に努めている。

### 今後の展望 環境対策を怠らず、 将来にわたり産業を支える

熱処理はエネルギー消費量が多いため、省エネ対策に力を入れる。高効率に排熱回収できるリジエネバーナーの導入や、各工場のエネルギー使用量の見える化、水銀灯からLED（発光ダイオード）やセラミックメタルハライドランプへの照明の切り替え、加西工場（兵庫県加西市）と高砂第1工場（兵庫県高砂市）への太陽光発電装置の導入などに取り組む。

今後の市場として航空宇宙産業分野を強化する。平成27年には高砂第2工場の航空宇宙ユニットがJIS Q 9100 認証を取得。航空宇宙産業の特殊工程作業認証 N a d c a p の取得も視野に入れる。



技術が結集する高砂第2工場



コイル材を巻いたまま熱処理

## 当社の歴史



熱処理会社のパイオニアとして明治42年に創業しました。「お客様の信用を大切に」という経営理念で日本の製造業を支え続けてきました。平成25年1月には初の海外拠点として中国・江蘇省で常州工場が稼働し、平成27年1月にはタイに現地法人を設立するなど海外での需要も視野に入れています。

代表取締役社長 大山 照雄さん

<http://www.tonez.co.jp/>

大阪28 ISO 9001 JIS Q 9100 ISO 14001

### 主な事業内容

金属材料および部品の熱処理加工全般

### 主な取引先(納入先)

鉄鋼、自動車、建設機械、工作機械、農業機械、船舶、航空宇宙産業のメーカーおよび部品メーカー

- 住 所 〒555-0034 大阪市西淀川区 福町1-6-20
- T E L 06-6477-3871
- F A X 06-6477-3887
- 創 業 明治42年6月
- 設 立 昭和13年10月
- 資本金 8,203万円
- 従業員 293名